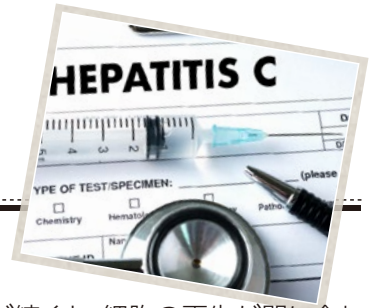




肝炎の種類と症状



肝炎について

肝臓はヒトの体で最も大きい臓器であり、体重の約50分の1を占めています。主な働きとして体に必要なたんぱく質の合成・栄養の貯蔵、有害物質の解毒・分解、食べ物の消化に必要な胆汁の合成・分泌などがあり、体の中でも重要な役割を担っている臓器です。

肝炎とは何らかの原因により肝臓に炎症が生じる疾患です。原因としてはウイルス、薬剤、アルコール、自己免疫などが挙げられます。このうち、最も多いのがウイルス性肝炎です。原因のウイルスは主にA・B・C・Eの4種類が知られており、以下のように特徴があります。

肝炎ウイルスの種類	特徴
A型	・貝類や海外旅行での飲食によって感染 ・日本では衛生環境が良く、ワクチンもあることから大流行する可能性は少ない ・急性肝炎の原因になるが、劇症化する症例は少なくほとんどが自然治癒する
B型	・輸血※や出産、刺青、性交渉、針刺し事故などにより感染 ・ワクチンにより若年者の感染は減少傾向 ・免疫機能が未熟な乳幼児期に母親から感染(母子感染)し、ウイルスが体外に排出されず、体内に保有した状態の人をキャリアという
C型	・輸血※や血液製剤※、刺青により感染 ・ワクチンはないが、治療薬が急速に進歩している ・劇症化は稀だが、慢性化することがある ・肝硬変や肝がんに進展する原因のもっとも大きな要因
E型	・豚、猪、鹿などが保有するウイルスにより感染 ・ワクチンはない ・生肉を食べないことが唯一の予防策 ・慢性化することがなく、ほとんどが自然治癒する

※現在使用されている輸血用血液や血液製剤は厳密な検査が行われているため感染は報告されていません。

また、肝炎は炎症の持続期間や悪化の進行度により以下のように分類されます。

■急性肝炎 … 短期的な肝炎

■劇症肝炎 … 肝炎が急激に悪化して肝臓の機能を保てない(肝不全)状態

■慢性肝炎 … 肝炎が6か月以上持続している(B型、C型肝炎が大部分)

■肝硬変 … 肝炎により

長い期間肝細胞の破壊が続くと、細胞の再生が間に合わなくなり、それを補うため線維が増え、肝臓が硬く小さくなった状態

■肝がん … 慢性肝炎や肝硬変の状態が続くとがん化する肝細胞がでてくる(原発性)

肝炎の症状

急性肝炎では以下のような症状が現れることがあります。

<急性肝炎の主な症状>

- ・発熱、喉の痛み、頭痛などの風邪のような症状
- ・食欲不振
- ・倦怠感
- ・吐き気
- ・腹痛
- ・皮膚や白目が黄色くなる(黄疸)
- ・尿が茶色くなる

慢性肝炎は急性肝炎に比べ、症状に乏しく自覚症状はほとんどみられません。倦怠感や疲労などの症状がみられる場合がありますが、急性肝炎よりも症状が軽いです。

また、急性・慢性ともに肝炎は自覚がないまま病気が進行していくこともあります。肝炎では、ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)やAST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)の上昇がみられるため、血液検査でも肝機能を調べることが可能です。肝炎ウイルスに感染しているかどうか血液検査で調べることができます。感染がある場合でも、検査や治療などで適切に管理すれば、肝硬変・肝がんの発症を予防することが可能です。検査はほとんどの医療機関で受けることができるため、今まで肝炎ウイルス検査を受けたことがない方は、一度肝炎ウイルスに感染しているかを受けてみましょう。

【参考】

疾肝啓発～よくわかる肝臓の病気～:あすか製薬
肝炎net:ブリストルマイヤーズスクイブ